

7 令和5年度主要観光施策

観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、市および関係団体・関係機関が連携し、市民との協働を図りながら、柔軟かつ効果的に施策を展開します。

【主要施策】

1 地域基盤構築

- 市と地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との役割分担の見直しと連携強化により、効果的かつ機動的な観光施策推進体制の確立を目指します。
- 市内外の関係機関等との積極的な情報交換・交流を図り、情報ネットワークの拡充・強化に努めます。

2 ビジョンの発信

- 観光施策の基本方針等について、観光関連団体等と情報共有するとともに、令和6年(2024年)から5年間の第5次観光基本計画を策定し、広く発信します。

3 課題抽出と対策立案

- 第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、有識者や観光関連団体、市民公募の委員からなる策定委員会を組織し、函館観光の課題や今後の方向性についての検討を行うほか、市民や市議会からの意見聴取を行います。

4 観光力の向上

- 賑わいや活気を取り戻すため、市民や観光客が楽しめるイベントの内容などを計画・実施するとともに、その情報発信を行います。また、人材・財源の確保が難しくなる中、既存イベントの見直しを含め、参加者および関係者にとって持続可能なイベントのあり方を検討していきます。
- 様々なイベント主催者などとの連携を深めながら、賑わいと活気の溢れる「フェスティバルタウン」としての認知度の向上やイベント関係者のコミュニティの活性化などを進めます。
- 国内外の観光客に訴求する地域の新たな魅力の掘り起こしや、観光需要回復を見据えた受入環境整備を進めます。

5 魅力発信と誘客促進

- 関係部局と連携を図りながら、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の国内外への情報発信の強化に努めるとともに、観光資源としての活用を推進します。
- 函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWEBやSNSなどによる観光プロモーションや教育旅行の受入環境のPRなど、効果的な誘客促進策を立案・展開します。
- 観光誘客促進にかかる施策を展開するほか、インバウンドの本格的な回復に向け、旅行消費額拡大や持続可能な観光地域づくりに取り組みます。

- 函館国際観光コンベンション協会や北海道MICE誘致促進協議会と連携しながら、積極的な誘致活動を展開するとともに、MICE開催に向けた情報収集ならびに効果的な支援に努めます。
- 函館のロケ地としての魅力をPRし、映画、ドラマ、CMなどのロケ地誘致や撮影支援を行うとともに、ロケ地めぐりなどを通じた観光誘客に努めます。

6 地域間連携

- 東日本の新幹線沿線地域や東北地域等と連携し、国内外からの誘客を図るための広域観光ルートの形成に努めます。
- 青森市、弘前市等と連携し、青函圏の魅力を広く発信するとともに誘客の強化に努めます。
- 札幌市および登別市と連携しながら、3市の魅力を発信し、誘客・周遊の促進を図るなど、「北海道ドラマティックロード」の構築に向けた取り組みを進めます。

【主な個別施策（6月補正後予算ベース）】

1 地域基盤構築

○函館国際観光コンベンション協会補助金

本市の観光振興および地域経済活性化を図ることを目的として補助金を交付している。

○観光関係団体負担金

北海道観光振興機構、日本観光振興協会、函館圏優良土産品推奨実行委員会、国際観光振興機構、箱館高田屋嘉兵衛顕彰会

2 ビジョンの発信

○次期観光基本計画の策定準備

現在の観光基本計画の計画期間は、令和5年度（2023年度）までとなっているため、令和6年度（2024年度）から5年間の第5次観光基本計画を策定し、広く発信を行う。

3 課題抽出と対策立案

○函館市観光基本計画策定検討委員会の設置

第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、有識者や観光団体、市民公募の委員会からなる策定委員会を組織し、函館観光の課題や今後の方向性についての検討を行うほか、市民や市議会からの意見聴取を行う。

4 観光力の向上

○イベント間連携の推進・支援

各イベント主催者間での相互連携を図るためメーリングリストの活用や、各イベント運営の一助とするべく市内外の有志を募るイベントボランティア登録制度を活用する。

○イベントの充実

【主なまつり・イベントの開催一覧】

名 称	主 催 者 名	開 催 時 期	行 事 内 容
箱館五稜郭祭	箱館五稜郭祭協賛会	5月中旬	碑前祭（5月第3土曜日）、 維新行列、開城セレモニー
恵山つつじまつり	恵山つつじまつり 実行委員会	5月中旬～6月上旬	ソーラン踊り、吹奏楽演奏ほか
南かやべひろめ舟祭り	南かやべひろめ舟祭り 実行委員会	6月中旬	舟こぎ競争、郷土芸能ほか
函館港花火大会	函館新聞社	7月中旬	海の日を記念した花火大会
市民創作函館野外劇	市民創作「函館野外劇」の会	7月上旬～8月上旬	野外劇「星の城、明日に輝け」
函館港まつり	函館港まつり実行委員会	8月1日～5日	ワッショイはこだて、歩行者天国、 道新花火大会ほか
湯の川温泉花火大会	湯の川温泉花火大会 実行委員会	8月中旬	花火大会
はこだてグルメサーカス	はこだてグルメサーカス 実行委員会	9月上旬	飲食ブースの出店、ステージイベント
はこだてMOMI-Gフェスタ	函館市	10月中旬～11月上旬	紅葉のライトアップほか
はこだてクリスマス ファンタジー	はこだてクリスマス ファンタジー実行委員会	12月	巨大もみの木のクリスマスツリーの 設置、花火の打ち上げほか
五稜星（ほし）の夢	五稜星の夢実行委員会	12月初旬～2月下旬	特別史跡五稜郭跡の外堀の イルミネーションほか
はこだて冬フェスティバル	はこだて冬フェスティバル 実行委員会	12月初旬～2月下旬	二十間坂通、開港通りなどのイルミ ネーション、ライトアップほか
湯の川冬の灯り	湯の川冬の灯り実行委員会	12月初旬～2月下旬	イルミネーション、ライトアップ、 湯の川まちあるきイベントほか
函館港イルミナシオン映画祭	函館港イルミナシオン 映画祭実行委員会	12月上旬	映画の上映、トークショー、 シナリオ大賞受賞式ほか
はこだてFOODフェスタ	はこだてFOODフェスタ 実行委員会	2月下旬	「食」をテーマとした各種イベント

注) 各支所管内のまつり・イベントを含む。

(2) 受入環境の整備

○滞在型観光の促進

函館観光の魅力の一つである「まち歩き観光」に対応した着地型の観光案内ツールとして、平成21年度から「函館まちあるきマップ」を作成し、多様なまち歩きコースを紹介するとともに、観光客の宿泊日数や滞在時間の長期化を図っている。

○縄文文化人材バンク運営事業

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録後、縄文文化交流センターを訪れる外国人観光客の増加により、通訳ガイドの不足が懸念されることから、縄文の魅力を正確に伝えることのできる質の高い通訳ガイドの確保および育成を図る。特に、本市インバウンドのボリュームゾーンである中国・台湾に対応可能なガイドの登録がないため、令和4年度から渡島総合振興局と共同で中国語ガイド育成に取り組んでいる。すでにガイド研修を完了した養成者5名を対象とし、縄文遺跡多言語ガイドの先進地である三内丸山遺跡において、ガイドスキル習得のための視察・研修会を開催するとともに、縄文遺跡ガイド経験豊富な青森県の通訳ガイドと情報・意見交換の機会を設ける。

○外国人観光客向けA I チャットボットの運営

外国人観光客からの問い合わせに、A I チャットボットを活用することで、24時間対応が可能となり、受入環境の向上を図る。令和2年10月開設。

【利用実績】

	英語	繁体字	簡体字	韓国語	その他	計
令和2年度 (R2.10~3)	91	7	1	9	61	169
令和3年度	72	14	1	2	3	92
令和4年度	141	81	6	25	0	253

○HAKODATE FREE Wi-Fi

平成27年度に函館市内の主要な観光エリアである元町エリアおよびベイエリアにおいて、35施設に48アクセスポイントを設置し、平成28年4月1日からHAKODATE FREE Wi-Fiとしてサービスの提供を開始。平成28年度には、函館駅前、大門、五稜郭、湯川等にエリアを拡大した。全ての機器が設置から5年経過し、経年劣化による故障も増加していることから、新たな機器を導入することにより、不稼働発生件数を抑えるとともに、最新の機器とすることで通信速度を改善し、観光客の満足度向上を図る。

5 魅力発信と誘客促進

(1) 情報発信

○函館市公式観光情報サイト「はこぶら」の運営

開設年月日：平成20年12月1日

掲載内容：飲食・観光スポット・土産品等の情報、イベント情報、フォトライブラリー、交通・宿泊情報、観光コラム、新型コロナウイルス感染症関連情報等

対応言語数：8言語（日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、インドネシア語、マレーシア語）

【ページビュー数】

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
10,954,713 件	9,307,811 件	6,913,559 件	7,026,110 件	10,142,848 件

(2) 誘客促進

○HAKOMENを活用した函館観光プロモーション

事業目的：コロナの影響による旅行スタイルやニーズの変化等を踏まえた非接触型のデジタルプロモーションと市内でのリアルイベントを行う。

発信内容：函館にゆかりのある歴史上の偉人をキャラクターにして、令和 3 年 9 月に結成した二次元アイドルグループ『HAKOMEN』を活用し、「景観」「食」「歴史」（縄文を含む）といった函館観光の魅力を発信した。

○海外観光プロモーション

個人の外国人旅行者の入国が解禁され、今後インバウンドの大幅な増加が見込まれることから、中国、韓国、タイ、ベトナムなど海外現地での旅行博等へ参加し、外国人観光客の積極的な誘致活動に取り組むほか、デジタルを活用した台湾人観光客の誘客、中国人富裕層向けのコンテンツ造成・販売、マレーシアの現地メディア招請などの実施により、旅行需要喚起や地域消費の拡大につなげる。また、これまでのメインターゲットであったアジア市場に加え、アメリカ市場へのプロモーションを強化するため、同市場の動向を調査し、今後のプロモーション施策のための一助とする。

○中国デジタルプロモーション

中国国内で人気のメッセージアプリ「Wechat」を活用し、中国人観光客が訪日できない状況でも本市の商品を購入、また往来再開後にその商品を現地で食・体験することを目的として訪問させるため、観光情報にEC機能を付与して一体的な情報配信を行う。

○MICEの誘致

平成 27 年 8 月の「函館アリーナ」のオープンと平成 28 年 3 月の北海道新幹線開業を契機とした宿泊施設の増加などにより、当市の受入環境は大きく改善し、従前以上に多種多様な規模・内容のMICEの開催要望が増加していることを踏まえ、引き続き、（一社）函館国際観光コンベンション協会等と連携し、当市での開催にかかる支援メニューの充実を図るとともに、学会事務局や大学関係、PCO等への一層積極的な誘致活動を展開していく。

○はこだてフィルムコミッション事業

平成 15 年 12 月に「はこだてフィルムコミッション」を設立し、テレビ、映画、雑誌等の撮影を支援している。

【撮影支援件数】

区 分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
テレビ、映画等	62 件	69 件	98 件	99 件

6 地域間連携

広域連携の取り組みとして、北海道新幹線新駅沿線地域や登別市・札幌市との連携による周遊観光の促進を図るとともに、首都圏～青函圏～道央圏といった周遊観光ルートの構築に向けて東日本エリアにおける新たな広域連携にも取り組んで行くこととしている。

○道内中核都市観光連携協議会（H23. 4設立）

北海道6圏域の中核都市が相互に観光情報を発信するとともに、観光プロモーション事業などを共同で実施するなど観光事業の一部を連携して実施する。

<構成等>

札幌市，旭川市，函館市，釧路市，北見市，帯広市

<主な取組>

- ・ 6都市集客・周遊プロモーション事業

○北海道新幹線新駅沿線協議会（H25. 5設立）

北海道新幹線新駅沿線地域が保有する観光資源等を活用して観光客の誘致を図るため、北海道新幹線沿線の5市町および交通事業者等による協議会を設立し、北海道新幹線新駅沿線地域の宣伝誘客および地域の広域観光の振興に取り組んでいる。

<構成等>

函館市，北斗市，七飯町，鹿部町，森町，JR北海道等交通事業者，各自治体観光協会

<主な取組>

- ・ はこだて旅するパスポート，利用促進パンフレットの発行
- ・ イベントプロモーション事業の実施
- ・ 駅ナカお出迎え事業の実施

○北前船日本遺産推進協議会（H29. 5設立）

平成29年度に日本遺産認定されたストーリー「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」を活用し、関係機関等の連携のもと、観光振興および地域活性化の推進を図る。

<構成等>

石狩市，小樽市，函館市，松前町，野辺地町，鱒ヶ沢町，深浦町，能代市，男鹿市，秋田市，由利本荘市，にかほ市，酒田市，新潟市，長岡市，佐渡市，上越市，富山市，高岡市，輪島市，小松市，加賀市，坂井市，南越前町，敦賀市，小浜市，宮津市，新温泉町，鳥取市，浜田市，呉市，尾道市，倉敷市，赤穂市，高砂市，洲本市，神戸市，大阪市，鶴岡市，出雲崎町，金沢市，白山市，志賀町，泉佐野市，姫路市，たつの市，竹原市，多度津町，備前市

<主な取組>

- ・ 北前船寄港地に係る情報発信および交流人口拡大
- ・ 北前船寄港地に係る歴史文化の環境整備

○北海道ドラマティックロード推進協議会（H30.4設立）

北海道新幹線開業を契機として、函館および道南への観光客の増加する中、日本有数の観光資源を有し、特に国内外の観光客の誘客が期待できる札幌市、登別市、函館市の3市および交通事業者等が連携強化を図り、東北、首都圏、中部、関西地域からの誘客と3市が基軸となった周遊ルートを図る。

<構成等>

函館市、札幌市、登別市

<主な取組>

- ・ 個人旅行者獲得のための取り組み
- ・ 北海道ドラマティックロードのブランディング

○青函観光宣伝協議会

青函両市を一体の観光圏として売り込み、観光客の誘致を図ることを目的に、両市ともに空路でつながっている中部圏・関西圏を対象に観光プロモーションを実施している。

<構成等>

函館市、青森市

<主な取組>

- ・ 中部圏・関西圏での共同プロモーション

○東日本広域周遊ルート関係

平成27年度からさいたま市主催の北海道新幹線沿線自治体の「東日本連携・創生フォーラム」首長連携会議が開催され、今年度も引き続き実施。本フォーラムの枠組みを活用し、東日本連携各自治体間の広域連携による物産・食・文化・祭・イベント等の地域資源を相互活用した広域観光周遊ルートの策定および当該周遊ルートの国際的な観光認知度の向上を図る。

<連携自治体>

さいたま市（事務局）、函館市、札幌市、青森市、八戸市、盛岡市、岩手町、仙台市、秋田市、山形市、会津若松市、福島市、郡山市、宇都宮市、小山市、那須塩原市、みなかみ町、新潟市、三条市、魚沼市、南魚沼市、高岡市、氷見市、南砺市、金沢市、長野市、上田市、福井市

<主な取組>

- ・ 東日本ウェブプロモーション事業

○3D連携関係

函館、大館、角館の3D（館）に加え、秋田犬ツーリズムを構成する北秋田市、小坂町、上小阿仁村が連携し、北海道・東北新幹線、函館空港と仙台空港を結びつけるなど、広域周遊ルートの開発による国内外からの誘客を拡大する。

<連携自治体>

函館市、大館市、仙北市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村

<主な取組>

- ・ 相互イベント交流

○青函4市連携

令和元年度末に解散した「青函圏観光都市会議」の枠組みで青森市、弘前市、八戸市、函館市の4市が連携し、相互プロモーションなどの取り組みにより、交流人口の拡大を図る。

<連携自治体>

青森市、弘前市、八戸市、函館市

<主な取組>

- ・ 相互イベント交流

○ひろはこ連携推進実行委員会（R4.4設立）

古くから人・物の交流によるつながりがあり、広域観光などにおいて関わりが深い弘前市と連携し、両市の相互誘客や周遊観光の促進などを図る取り組みを実施する。

<構成等>

弘前観光コンベンション協会、函館国際観光コンベンション協会、
弘前市、函館市

<主な取組>

- ・ 冬には「初音ミク」の派生キャラクターであり北海道応援キャラクターの「雪ミク」と、春には同じく派生キャラクターで弘前さくらまつり公式応援キャラクターの「桜ミク」と連携した取り組みを両市で展開する。